成吉思皇帝聖旨牌

余は曾て「元の海青牌に就きて」[1]といふ論文及び「元朝驛傳雜考」[2]と題する一書を著はし、その中に於て、今日に遺存する元代の牌札に就いて論述した。此等の牌札は、(一)素(或は平)銀牌、(二)虎頭銅牌、(三)虎頭銀牌、(四)海青牌、(五)新圓牌(?)等の名で元代史料に記錄せられて居るもの、若しくはかく稱せらるべきものである。その後更にこれを增補すべき遺存牌札のなほ二二あることを知つたが、今茲に述べようとするのは、諸種の意味から、蒙古の遺存諸牌中、最も注意すべきものである。

蒙韃備錄官制の條中に

所レ佩金牌、第一等貴臣帶二兩虎相向一、曰二虎鬪金牌一、用二漢字一、曰二天賜成吉思皇帝聖旨、當二便宜行レ事、其次素金牌、曰二天賜成吉思皇帝聖旨疾一、又其次銀牌、文與前同

と記されてある。文中の「虎鬪金牌」は「虎頭金牌」の音訛で、そうして此の訛に因りて「兩虎相向」の說を生じたのである。從つてかゝる圖樣を附した牌が實際存在したのでは無く、たゞ牌の上部に虎頭を作り附けた牌が有つたに外ならぬといふのが王國維氏の考で、その蒙韃備錄箋證に於て論じた所である。素金牌はまた平[3]金牌ともいはれたもので、牌上に虎頭の裝飾を有しない平金の牌札を稱する名であつたこと疑無い。從來學界に紹介せられて居